

半角スペース、怖い

池田 隆

日曜のあさ目覚めると五時半、Eテレ番組「このころの時代」を見ようとスイッチを押した。「問われる宗教とカルト」と題し、宗教学者、憲法学者、弁護士と円卓を囲み、江戸時代の社会風俗に造詣が深い田中優子氏が論説している。統一教会問題の法律論議に止まらず、社会におけるコミュニティの歴史的变化にまで視野を広げた彼女の考察に興味を抱く。

後刻、NHKプラスで改めて番組の最初より見たいと、パソコンを開いた。メモを見ながらIDとPWを入力するが、「違います、確かめ直してください」の表示。数回繰り返すが、やはり駄目である。コールセンターへ電話すると、丁寧に対応してくれる。指示にしたがい新たな登録過程から慎重にやり直すが、結果は変わらない。

先方もベテラン(?)に選手交代、まずIDとPWの入力欄でBSキーとDelキーを長押しして、それからIDとPWを入力してみても下さいという。やってみると見事にOKとなる。その間の電話でのやり取りは小一時間ほど。入力欄に何かの拍子で半角スペースが残っており、それに気づかず入力してしまうケースが多いようだ。

「見づらいものは怖い」と実感し、ついつい連想が始まる。学生時代に電気工学科と機械工学科のいずれを専攻しようかと迷っていたときに、後者へ進むと決めていた友人の言葉、「電気は見えないから怖い」に同感したことを思い出す。

社会人となり原子力分野の仕事に携わる機会が多かった。そのとき最も怖かったのは、やはり目に見えない放射能だった。国際防衛上、最も怖いのはハードなミサイル攻撃よりソフトなサイバー攻撃の方だとの意見もきく。

人類にとつての近未来の脅威は対話AIの発達だと識者は語る。中身不明のブラックボックス化したソフトアプリは便利さの一方、不気味で怖い。その極めつきは他人様の心うちかも知れない。番組を再び聴いていると、異常な靈感や宗教、思想信条に取りつかれる人間の心理状態が最も怖いように思えてきた。